「島に住む」身体障害者福祉

福祉「施設」の利用者や患者は、ひとたび日常から切り離されてしまうと、社会に復帰しにくい現状がある。そこで、「離島」の持つ環境を最大限に取り入れた福祉施設を提案する。離島での生活は、物々交換や日常のつながりなどによって個々人の果たす役割が非常に大きい。このアクターネットワークに障がい者を組み込むことで、島全体を巻き込むような障がい者のための福祉のみらいを提案する。

登山とリハビリ

高島の山は標高 169m の高さである。比較的軽度の身体障害者には、登山を通してリハビリを行うことができるプログラムを用意する。

小学校と障害者

島には小学生が 10 数名ほどしかいない。障害者の機能回復訓練と小学生の授業プログラムを兼ね、多様な交流を創出する。

漁業体験

島には小さな磯があり、そこでは島の人が貝などをとっている。磯での簡単な漁業を通して、リハビリを行う。

海辺での運動

島に唯一海に面した公園である漁港公園。ここでは、島の目の前に広がる海を見ながら体操などの軽微な運動を行う。

島の農作物の生産

島では、化粧品のための農作物を生産している。その作業を機能回復訓練として行いつつ、社会復帰時には就労斡旋を行う。

島の周遊路

高島は海岸線 3.2km ほどの小さな島である。島には車が 3 台ほどしかないので、より安全に島散歩することができる周遊路である。

わかめ工場

軽微な作業で、島の産業を手伝う。また、社会復帰の就労斡旋も行い、島への定住も促す。

地域イベント

公民館主催の餅つきや料理会などに参加する。島にいる人々と触れ合うきっかけとなる。

background 身体障害者の日常と提案 01

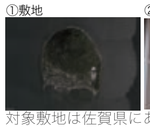
①施設内日常から社会的日常への急激な変化

②提案

日常が急変する身体障害者たち。そんな急激な変化を伴う人々に緩やかに社会との繋がりを持った障害者福祉を提案する。

site 佐賀県唐津市高島 02

①敷地



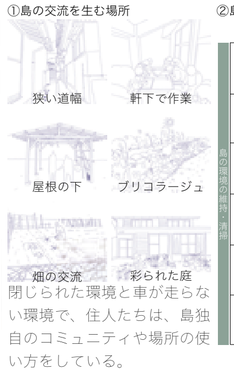
②車のない環境

③支えあいの環境

対象敷地は佐賀県にある離島である。離島は、海に囲まれた環境から、人々が互いに協力し合いながら生活している。

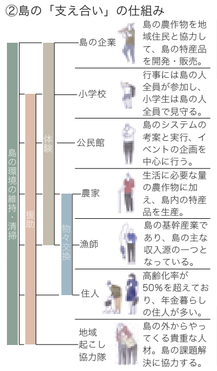
Research 海に囲まれた島の環境 03

①島の交流を生む場所



閉じられた環境と車が走らない環境で、住人たちは、島独自のコミュニティや場所の使い方をしている。

②島の「支え合い」の仕組み



Program 島の日常の福祉 04

島の日常に溶け込む「福祉の日常」

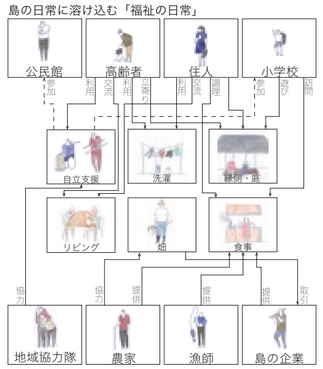
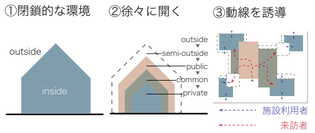


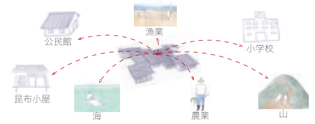
Diagram 島の環境と繋がる 05

①閉鎖的な環境　②徐々に開く　③動線を誘導



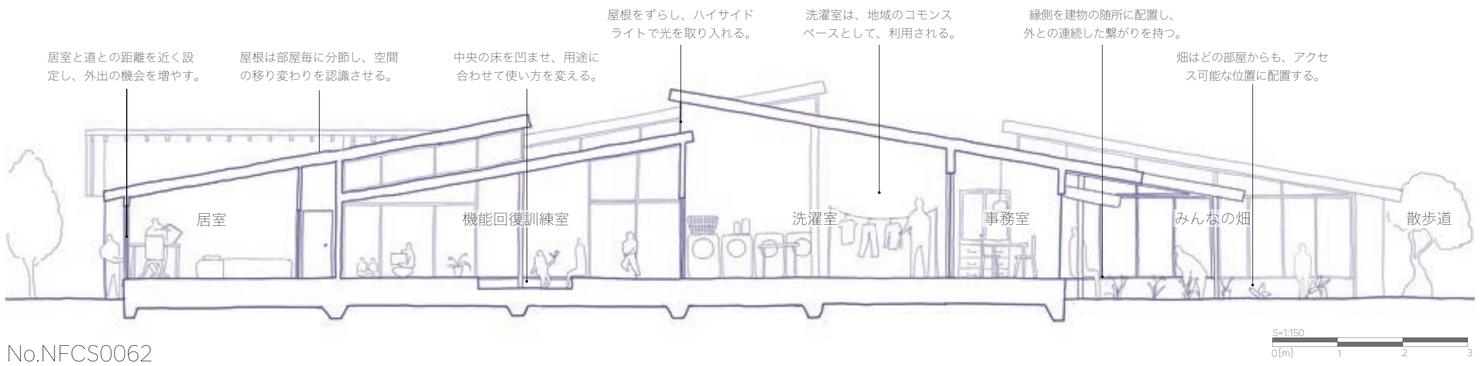
現在の外部と内部の二極化した機能配置ではなく、外部の人の利用を考慮した平面計画。

②島全体を取り入れた福祉施設



島の外部環境も取り入れた福祉施設として、島の人・環境・ものとのつながりを作る。

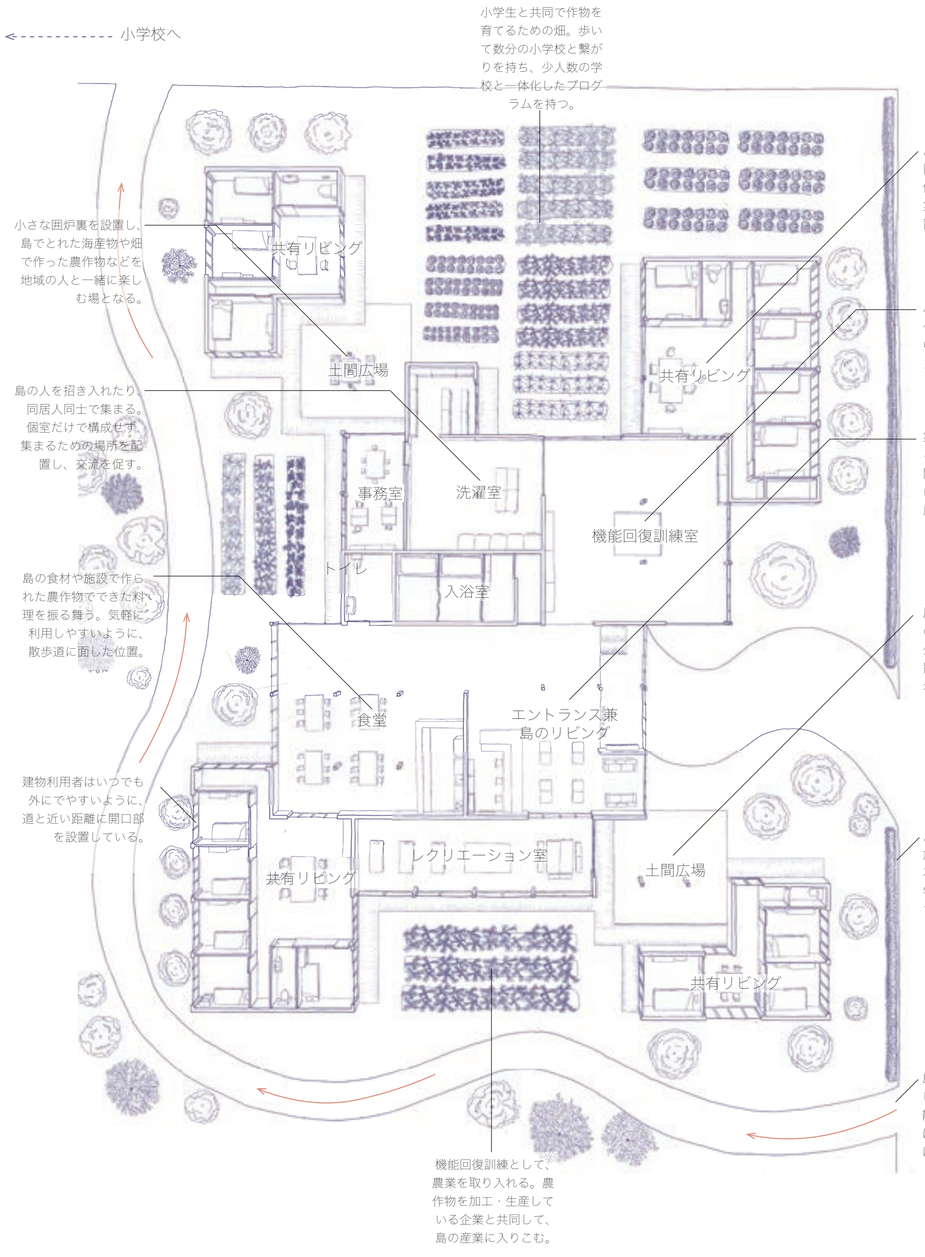
section(S=1/150) それぞれの機能と断面構成



No.NFCS0062

平面パース

平面構成と周辺環境との関係



小学生と共同で作物を育てるための畑。歩いて数分の小学校と繋がりを持ち、少人数の学校と一体化したプログラムを持つ。

小さな囲炉裏を設置し、島でとれた海産物や畑で作った農作物などを地域の人と一緒に楽しむ場となる。

島の人を招き入れたり、同居人同士で集まる。個室だけで構成せず、集まるための場所を配置し、交流を促す。

島の食材や施設で作られた農作物でできた料理を振る舞う。気軽に利用しやすいように、散歩道に面した位置。

建物利用者はいつでも外にでやすいように、道と近い距離に開口部を設置している。

島の人を招き入れたり、同居人同士で集まる。個室だけで構成せず、集まるための場所を配置し、交流を促す。

小学生や島民との共同作業も行えるように、中央の土間を中心にワンルームの広い空間としている。

第一に訪れる場所であるため、より島の中で開けた場所にするために、くつろげる空間構成としている。

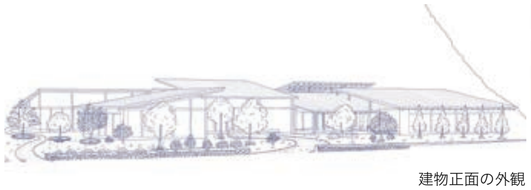
屋外での交流が多い島の環境に対して、半屋外空間の土間広場を配置し、より訪れやすい場所を設ける。

島にある石を用いて、施設の人たちが共同で石垣の花壇を作る。建物の正面を利用者の手で彩る。

島での散歩の寄り道として、施設を外周する散歩道を配置。施設内に日常から入るきっかけを作る。

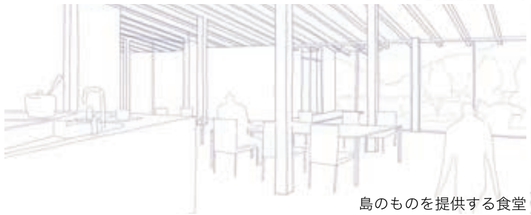
機能回復訓練として、農業を取り入れる。農作物を加工・生産している企業と共同して、島の産業に入りこむ。

■Perth

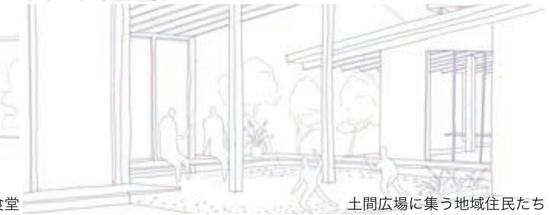


建物正面の外観

エントランス兼島のリビングルーム



島のものを提供する食堂



土間広場に集う地域住民たち